

＜今日の説教のポイント 創世記 47 章 27 節～49 章 28 節＞

ヤコブが行った奇妙な祝福から、神様の本当の祝福の意味を考える。

①神様がヤコブにされた祝福 — 子孫の繁栄と約束の地の授与？

まず神様がヤコブにされた祝福は「子孫の繁栄と約束の地の授与」(48:3-4)でしたが、その神様はヤコブが自分の犯した過ちで苦しむ中に置かれた時にもいつも共にいて下さる神様でした(35:3)。ですから、エジプトでいくら恵まれてもそこで満足することはできなかったのでしょうか(47:29 以下)。

②ヨセフの子にした祝福 — 新しい恵みの内容あり！

そのヤコブが、エジプトで生まれたヨセフの二人の子マナセとエフラムにこの祝福を授けます(48:1-6)。それは、③に記したように、ヤコブの子らに与えられる祝福を彼らもまた継ぐことを示しています(シメオン、レビに代わって?)。神の選びの民と言っても、変な純血主義ではない、全ての民族が含まれていくことを覚えさせられます。また、兄と弟に与えられるものが逆になること(48:12-20)はヤコブとエサウの場合と同じで、人間の思いを超えた神様の業を教えられます。

③自分の子 12 人にした祝福 — これが祝福??

49 章ではヤコブが 12 人の子ども全員を祝福しています。しかし、どう考えても普通では祝福とは思えないような彼らの将来の姿も含まれています(3-7, 14-19)。ヤコブがまさに預言したにせよ、こうなったことを知る後代の人々が記したにせよ、これは①に記した、「自分の犯した過ちで苦しむ中に置かれた時にもいつも共にいて下さる神様」を信じていると考えると分かります。さらにはイエス様の救いを考えると！

④イエス様から考える — 苦しみの向こうに永遠という祝福を見る！

イエス様は病が癒される喜びを人々に与えられましたが、ご自身は十字架の死から逃げずに死ぬ道を選び取られました。それは私たちの罪を代わって負うためでした。そしてその先に復活が待っていたのであり、神様が私たちの罪を赦して下さる道がはっきり示されたのです(ローマ 5:6-11!)。この、イエス様の苦しみによって開かれた祝福の道を知ったならば、ヤコブや後代の信仰者たちがもうこの世的な喜びが与えられるかどうかではなく、「この神様の祝福の中に置かれること」にこだわったことも理解できます。イエス様の重要性を思わされます。